

神長官守矢家当主力揮毫

諏訪市有賀 千鹿頭神社の のぼり旗



守矢真幸
(茅野市神長官守矢史料館提供)



学芸員によって確認された守矢真幸揮ごうの最古ののぼり旗＝4日、諏訪市有賀公民館

77代真幸(1883～1965年)「最古」と確認

諏訪市有賀の千鹿頭神社ののぼり旗にある神社名を、諏訪大社上社の神長官を務めた守矢家(茅野市高部)当主が揮毫していたことが分かった。書いたのは77代守矢真幸(1883～1965年)。守矢家に詳しい茅野市神長官守矢史料館によると、確認できる真幸揮毫ののぼり旗では最も古い。(今井則幸)

制作したのは1937(昭和12)年4月8日。明治維新によって神長官はなくなり、真幸は当時、諏訪大社に奉職していた。

有賀区民が同館で開催中の企画展「守矢家の書」に接して情報提供、同館学芸員が来区し確認した。のぼり旗は一对でともに縦11尺、横1・4尺ほどの大きさ。「千鹿頭神社」と筆で大書きされ、左下方に「神朝臣守矢真幸敬書」

の文字が入る。「洲羽大社」の落款もある。

史料館によると、真幸揮毫ののぼり旗はこれまでに茅野市や富士見町、塩尻市、長野市などで16件確認した。最も古かったのは上社前宮(茅野

同館学芸員の柳川英司さん(56)は「旧神長官のブランド力を知る上でも貴重な史料になる」と評価。同神社氏子総代の小泉克英会長(59)は「調査によって立派なものとはつきりした。今後、保存方法も検討していきたい」と話した。のぼり旗は、毎年4月の例大祭のほか、同神社の御柱祭の際に立てられる。

守矢真幸

最後の神長官を務めた

75代実顕の次男として1883(明治16)

年誕生。諏訪郡立実科中学校(現諏訪清陵

高校)、国学院大学を卒業後、県内各地の中学、高校へ赴任。1926(大正15)年教

員を辞め官幣大社諏訪神社(現諏訪大社)

に奉職し同年辞職。28(昭和3)年同神社

に復職し46(21)年から約7年間宮司を務

めた。65(40)年死去。現在の守矢家当主は78代目。